たんぽぽ

秋田県立大曲支援学校
せんぼく校

地域支援部報　第４号
令和６年３月１日

共に学び　共に育つ　居住地校交流

今年度の居住地校交流も、地域の学校の協力を得ながら、小学校では5校8回、中学校では2校2回実施できました。どの学校でも様々な工夫や環境調整などの配慮をいただき、充実した交流につながりました。また、初めて居住地校交流を実施する児童生徒の交流先（3校）では、せんぼく校のことや障害の特性、気持ちを想像したかかわり方を知ってもらうために、事前に障害理解授業を実施させていただきました。おかげで、すべての学校から温かく迎えていただき、「すごく楽しかった。久しぶりに会えて嬉しかった。」など、次回の交流を楽しみにする感想が聞かれました。今後も引き続き充実した交流活動を継続していけるよう、ご協力をお願いいたします。

居住地校交流での学習内容

＜小学校＞

小２　体育　「リレー、ボール当て」
小３　図工　「せんとせんがあつまって」
　　体育　「体ほぐしの運動」
小５　図工　「コロがるくんの旅」
　　「ハッピーカードの紹介」
　　特活「クリスマスイブイブパーティーをしよう」

＜中学校＞

中１　美術　「あかりのデザイン」
中２　美術　「和菓子のデザイン」

充実した交流につながったポイント

☆打合せの中で計画されることが大切です☆

・得意なダンスやゲームや、学習の流れのパターンを取り入れてもらった。
・同じ題材を　学校で作り、交流当日は作品を紹介し合ったり、一緒に遊んだりして、関わる時間を多くした。
・デザインは冬休みの課題にし、交流当日はカラーセロハンの貼り付け作業を一斉に行った。
・事前にユニークな人柄が伝わるビデオレターを送った。
・作業学習製品の鎌足和紙を、美術部の制作で使ってもらった。

交流先の児童生徒のアンケートより

＜小学校＞

・元気に明るく話しかけてくれたので、緊張がほぐれて、うまく話すことができました。来年は、自分から話しかけられるようになりたいです。
・ビー玉の作品は、おもしろくて、難しいところもあって、楽しかったです。
・私たちと同じ感じで、字も上手だし、絵も私よりも上手でびっくりしました。
・お店で会ったら話しかけてほしいです。もちろん、私も声をかけたいです。

＜中学校＞

・関わってみると、学校のこと、ゲームのことなど、たくさん話をしてくれて楽しかったです。
・個性が豊かで楽しい人たちだった。独特のアイディアがあって驚きました。
・みんなを笑顔にさせる天才だと思いました。
・マイペースだと思っていたけど、言われたことをすぐにこなしていて、すごいと思いました。

せんもんかんの部屋　No.4

福伝ROOM

秋田県立大曲支援学校
教諭（兼）教育専門監
大川　康博

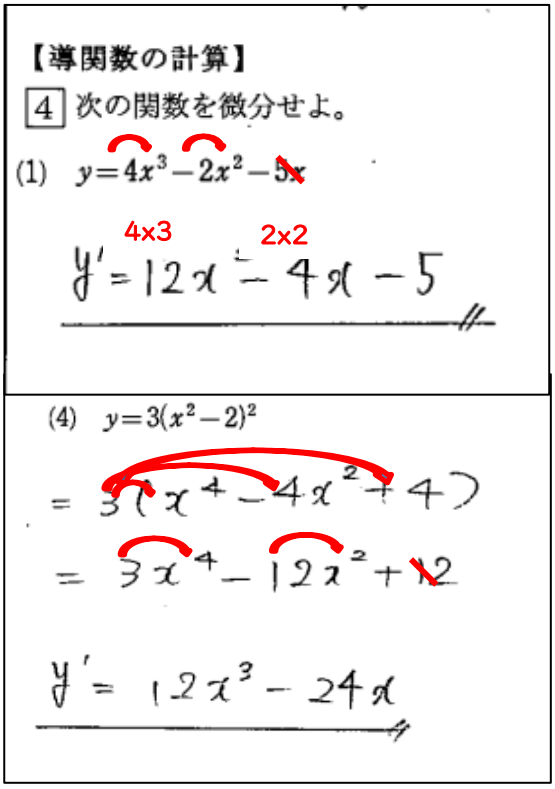
自分に合った学び方とは？

先日、高等学校特別支援チームでＡ高等学校を訪問しました。２年生コース別の学習であり、数学「微分法」の授業を参観しました。中学校まで知的障害特別支援学級に在籍していたＳさんの学び方について紹介します。

Ｓさんは黒板に提示された問題の解き方の例を参考にしながら取り組んでいました。時間がかかりますが、自分で考えながらプリントに記入していました。先生からは、展開部分を気を付けるように言われ、そのことを意識しながら取り組んでいました。

計算していくうちに、今、どこを計算しているのか分かるように矢印を記入して計算していました。こうすることで、計算ミスを減ることをこれまでの学習で身に付けており、活用していました。

集中の持続が難しい、忘れやすい、同時に複数のことができないなどの場合、小学校１年生では算数ブロックを使い、具体物を操作することで理解を深めます。学年が進むにつれて、指を使っていると恥ずかしいので計算の足跡を紙面上に残す方法に切り替えます。どうすれば学びやすいのか生徒自身が体験して、自分で選択し、使えるようにすることが支援する側でもつ大切な視点であると思います。



「できない」から「どのような支援があればできるのか」人によって様々ですが、そのことを常に意識することを再確認しました。

一年間、特別支援学校のセンター的機能をご活用いただきありがとうございました。「どこに相談したらよいか分からない…」という場合でも、さまざまな情報提供や連携した支援を行っていきますので、今後もお気軽にお声掛けください。

秋田県立大曲支援学校せんぼく校

〒014-0372　仙北市角館町小館７７番地２

ＴＥＬ　０１８７－４２－８５６８
ＦＡＸ　０１８７－４２－８５６９
メールアドレス　senboku-s@akita-pref.ed.jp

副　校　長：清水　潤
教育専門監：大川　康博（大曲支援学校）
地域支援部：佐々木　奈織